



TITLE:

Differentialの加群とSerreの条件について (Derivations及びAlgebraのCohomology研究会報告集)

AUTHOR(S):

松岡, 忠幸

CITATION:

松岡, 忠幸. Differentialの加群とSerreの条件について (Derivations及びAlgebraのCohomology研究会報告集). 数理解析研究所講究録 1970, 94: 62-75

ISSUE DATE:

1970-08

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/108158>

RIGHT:

differential の加群と Serre の条件 について

愛媛大 理 松岡 忠幸

§ 0. 序

R を perfect field k 上の reduced な locality とし $\Omega_{R/k}^1$ を R の k -differentials のなす R -module とする. このとき ring R の持つ性質と module $\Omega_{R/k}^1$ の性質が互いにどのようなように反映しあうであろうか. このことに関して今まで幾つかの考察がなされているが, その中の一つとしてよく知られているように Berger [3], 鈴木 [10], Lipman [6] 等によって次の結果が得られている.

「 R が complete intersection のときには, R が normal であることと $\Omega_{R/k}^1$ が torsion free であることは同値である」

M.-P. Malliavin は, Serre の条件と, Auslander [9] によって導入された torsionless, reflexive などの概念の拡張である without \mathfrak{g} -torsion という概念とを使って上の結果の一般化を行った [7].

本講 §1 では、講演者の考察を加えながらこの Malliavin の結果 (定理 2) を紹介する。また §2 では §1 との関連において $\Omega_{R/k}^1$ のホモロジ-次元の考察をし、 R が complete intersection であることの特徴づけについての D. Ferrand の結果 [5] の一つの証明をよべる。

なお以下に述べる $\Omega_{R/k}^1$ についての殆んどの結果は、 R の absolute differentials (すなわち素体上の differentials) のなす R -module Ω_R^1 についても成り立つことを注意しておく。

以下記号 $R, k, \Omega_{R/k}^1$ 等は上述のものとし、一般の可換で単位元を持つ noetherian local ring を A とあらわし、与える A -modules はすべて有限生成の unitary modules とする。さらに A の Krull 次元を $\dim A$ とあらわし、 A -module M について maximal M -sequence の長さを $\text{depth}_A M$ と、また M のホモロジ-次元を $\text{hd}_A M$ とあらわすものとする。

§1. Serre の条件と Torsion

1° まず A -module M についての Serre の条件とこれに関連のある定義を述べる。

定義. 整数 $g \geq 0$ について

$$(i) \quad \text{depth}_{A_p} M_p \geq \inf(g, \dim A_p) \quad \forall p \in \text{Spec}(A)$$

のとき M は Serre の条件 (S_g) を満たすという.

$$(ii) \quad \text{depth}_{A_{\mathfrak{p}}} M_{\mathfrak{p}} \geq \inf(g, \text{depth } A_{\mathfrak{p}}) \quad \forall \mathfrak{p} \in \text{Spec}(A)$$

のとき M は条件 (a_g) を満たすという.

$$(iii) \quad \dim A_{\mathfrak{p}} \leq g, \mathfrak{p} \in \text{Spec}(A) \quad \text{なら } A_{\mathfrak{p}} \text{ が regular であるとき } A \text{ は条件 } (R_g) \text{ を満たすという.}$$

すなわち Serre の normality の判定条件はよく知られている.

「 A が normal である条件は A が条件 (S_2) と (R_1) を満たすことである」

また (ii) は次の意味をもつ.

命題 1. M を A -module とするとき,

M が条件 (a_g) を満たす \Leftrightarrow 長さ $\leq g$ の A -sequence はまた M -sequence でもある.

この証明は Samuel [8] の prop. 6 の証明を修正すればよい.

A -module が条件 (S_g) を満たせば当然条件 (a_g) を満たすが、我々が考えている module $\Omega_{R/k}^1$ について、もしこのホモロジー次元が有限であれば、この逆も成り立つ.

命題 2. $\text{hd}_R \Omega_{R/k}^1 < \infty$ のときには、この $\Omega_{R/k}^1$ について (S_g) と (a_g) は同値な条件である.

この証明の鍵は、 R の regularity についての基本的性質
「 R が regular local ring $\Leftrightarrow \Omega_{R/k}^1$ が free R -module」

と次の Auslander - Buchsbaum [1] の結果である。

「 A -module M について $\text{hd}_A M < \infty$ である」

等式 $\text{hd}_A M + \text{depth}_A M = \text{depth } A$ が成り立つ

命題 2 の証明: $(a_g) \Rightarrow (S_g)$ を示せばよい。 $g \geq \dim R_P$

である $\mathcal{P} \in \text{Spec}(R)$ について \mathcal{P} は、当然 $g \geq \text{depth } R_P$ であるから、

$\text{depth}_{R_P} \Omega_{\mathcal{P}} \geq \text{depth } R_P$ ($\Omega = \Omega_{R/k}^1$)。 1 であるから

$\text{hd}_{R_P} \Omega_{\mathcal{P}} = \text{depth } R_P - \text{depth}_{R_P} \Omega_{\mathcal{P}} \leq 0$ 。ゆえに $\Omega_{\mathcal{P}}$ は

free R_P -module, すなわち R_P は regular であるから

$\dim R_P = \text{depth } R_P$ 。また $g < \dim R_P$ となる \mathcal{P} にも上

と同じ考察で $\text{depth } R_P > g$ であることがわかる。証明了

この命題 2 の証明と全く類似の方法で次の命題が得られる。

命題 3 ([4]). $\text{hd}_R \Omega_{R/k}^1 < \infty$ のときには、 $\Omega_{R/k}^1$ が条件 (S_g) を満たせば、 R は条件 (S_{g+1}) と (R_g) を満たす。

2° M を A -module とし、 M^* を M の dual $\text{Hom}_A(M, A)$ をあらわす。 A -modules の exact sequence

$$(1) \quad F_1 \longrightarrow F_0 \longrightarrow M \longrightarrow 0$$

(F_0, F_1 は free A -modules) において、

$$(2) \quad T_i(M) = \text{Ext}_A^i(D(M), A) \quad i \geq 1$$

($D(M) = \text{Coker}(F_0^* \rightarrow F_1^*)$) を示さる。すると

$$(2) \quad 0 \rightarrow T_1(M) \rightarrow M \xrightarrow{\theta} M^{**} \rightarrow T_2(M) \rightarrow 0$$

(θ は canonical map) が exact であり, また

$$(3) \quad T_i(M) \simeq \text{Ext}_A^{i-2}(M^*, A) \quad i \geq 3$$

である [9]. したがって A -modules $T_i(M)$ は exact sequence (1) によらず M だけで定まる.

定義. $g \geq 1$ 整数とする. A -module M が $T_i(M) = 0$ $i = 1, \dots, g$ のとき, without g -torsion であるという.

exact sequence (2) から

「 M が without 1-torsion $\Leftrightarrow M$ が torsionless」,

「 M が without 2-torsion $\Leftrightarrow M$ が reflexive」 である.

torsionless module は free module の submodule であるが, $g \geq 2$ のとき M が without g -torsion とすると, exact sequence

$$G_{g-1} \rightarrow \dots \rightarrow G_0 \rightarrow M^* \rightarrow 0$$

(G_0, \dots, G_{g-1} は free A -modules) の dual をとって得られる zero-sequence

$$0 \rightarrow M \rightarrow G_0^* \rightarrow \dots \rightarrow G_{g-1}^*$$

は, (3) より $\text{Ext}_A^i(M^*, A) = 0$, $g-2 \geq i \geq 1$, であるから, exact である. (したがって次の補題が成り立つ.)

補題 1. M が without g -torsion なら, 次のような exact sequence が作れる.

$$0 \rightarrow M \rightarrow F_0 \rightarrow \cdots \rightarrow F_{g-1}$$

\Rightarrow F_0, \dots, F_{g-1} は free A -modules.

次に A -modules の exact sequence

$$0 \rightarrow M_1 \rightarrow M_2 \rightarrow M_3 \rightarrow 0$$

$$\begin{aligned} \text{depth } M_2 &\geq \inf(\text{depth } M_1, \text{depth } M_3) \\ \text{depth } M_1 &\geq \inf(\text{depth } M_2, \text{depth } M_3 + 1) \\ \text{depth } M_3 &\geq \inf(\text{depth } M_2, \text{depth } M_1 - 1) \end{aligned}$$

が成り立つことから

補題 2. A -modules の exact sequence

$$0 \rightarrow M \rightarrow L \rightarrow N \rightarrow 0$$

で, L が free のときには, N が条件 (a_{g-1}) をみたせば M は条件 (a_g) をみたす.

がわかる. これらの補題より g についての帰納法を使えば次の命題が得られる.

命題 4. A -module が without g -torsion なら, それは条件 (a_g) をみたす.

さて一般に A が reduced のときには A -module が torsion free であることと torsionless であることは同値であるから, 命題 2, 3 および 4 より differentials の module $\Omega_{A/k}^1$ について次の定理が得られる.

定理 1. $\text{hd}_R \Omega_{R/k}^1 < \infty$ のときには, $\Omega_{R/k}^1$ が without g -torsion なら R は条件 (S_{g+1}) と (R_g) を満たす. (これが特に $\Omega_{R/k}^1$ が torsion free なら R は normal である).

問題. 上の定理で仮定 $\text{hd}_R \Omega_{R/k}^1 < \infty$ を除くことが出来ないか. これは $g=1$, $\dim R=1$ のときでさえ判っていないようである.

次に定理 1 の逆について考える. そのために

補題 3 (Serre). M を A -module とするとき, $\text{hd}_A M \leq 1$ なら,

$$M \text{ が free } \iff \text{Ext}_A^1(M, A) = 0$$

証明は, \Rightarrow は明らかであるから \Leftarrow を示せばよい.

M の free resolution を

$$0 \longrightarrow F_1 \longrightarrow F_0 \longrightarrow M \longrightarrow 0$$

とすると, $\text{Ext}_A^1(M, F_1) = 0$. これは F_1 の M による拡大が分解拡大だけであることを示めているから M は F_0 の direct summand. ゆえに M は free である.

この補題を使うと, R が complete intersection のときには $\text{hd}_R \Omega_{R/k}^1 \leq 1$ (§ 2 を参照) であるから,

$\text{Supp Ext}_R^1(\Omega_{R/k}^1, R) \neq \emptyset \iff R_{\mathfrak{p}}$ が regular であることがわかる.

これより Berger - 鈴木 - Lipman の結果の一般化として次の定理がわかる.

定理 2 (Malliavin). R が complete intersection のときには

次の条件は同値である.

- (i) R が条件 (R_g) を満たす
- (ii) $\Omega_{R/k}^1$ が without g -torsion である
- (iii) $\Omega_{R/k}^1$ が条件 (S_g) を満たす
- (iv) 長さ $\leq g$ の R -sequence はまた $\Omega_{R/k}^1$ -sequence でもある

証明はこれまでの考察から (i) \Rightarrow (ii) を示せばよい.いま (i) であるとする. R が Macaulay ring であることに注意すると, $\text{Supp Ext}_R^1(\Omega_{R/k}^1, R) \neq \emptyset \Rightarrow \text{depth } R_{\mathfrak{p}} \geq g+1$.

ゆえに

$$\begin{aligned} & \text{grade Ext}_R^1(\Omega_{R/k}^1, R) \\ & \geq \inf \{ \text{depth } R_{\mathfrak{p}} \mid \mathfrak{p} \in \text{Supp Ext}_R^1(\Omega_{R/k}^1, R) \} \\ & \geq g+1 \end{aligned}$$

$$\text{したがって } \text{Ext}_R^i(\text{Ext}_R^1(\Omega_{R/k}^1, R), R) = 0 \quad 0 \leq i \leq g.$$

一方 $\text{hd}_R \Omega_{R/k}^1 \leq 1$ から

$$T_i(\Omega_{R/k}^1) = \text{Ext}_R^i(\text{Ext}_R^1(\Omega_{R/k}^1, R), R) \quad i \geq 1$$

であるから, $\Omega_{R/k}^1$ は without g -torsion である. 証明了附記. 最近 U. Vetter は [12] で定理 2 の条件 (i) は次の各々の条件と同値であることを示めし.

- (v) $\Omega_{R/k}^i (= \bigwedge^i \Omega_{R/k}^1)$ $i=1, \dots, g$ が torsion free
- (vi) $\Omega_{R/k}^i$ $i=1, \dots, g-1$ が reflexive ($g \geq 2$)

§ 2. $\Omega_{R/k}^1$ のホモロジ次元

A -module M の minimal generators の個数を $r(M)$ であらわす. いま m を R の maximal ideal とすれば

$$(1) \quad r(\Omega_{R/k}^1) = r(R_y) + \dim(R/y) + \text{tr. d.}_k(R/m) \\ y \in \text{Spec}(R)$$

である. 実際 $\tilde{R} = R_y$, $\tilde{y} = yR_y$ とおくと, k が perfect k から \tilde{R}/\tilde{y} は k 上 separable. (2) が成り

$$0 \rightarrow \tilde{y}/\tilde{y}^2 \rightarrow (\tilde{R}/\tilde{y}) \otimes_{\tilde{R}} \Omega_{\tilde{R}/k}^1 \rightarrow \Omega_{(\tilde{R}/\tilde{y})/k}^1 \rightarrow 0$$

が exact sequence. これから (1) が得られる.

特に

$$(2) \quad r(\Omega_{R/k}^1) = r(m) + \text{tr. d.}_k(R/m)$$

があり, また

$$(3) \quad r(\Omega_{R/k}^1) \leq \dim R + \text{tr. d.}_k(R/m), \quad y \in \text{Ass}(R)$$

ここで 少くとも一つの $y \in \text{Ass}(R)$ について等号が成り立つ.

いま $\Omega_{R/k}^1$ の minimal free resolution は

$$(*) \quad \cdots \rightarrow L_i \rightarrow \cdots \rightarrow L_0 \rightarrow \Omega_{R/k}^1 \rightarrow 0$$

とする. すなわち上の sequence が exact 7 L_i は free 7

$$\text{Im}(L_{i+1} \rightarrow L_i) \subseteq m L_i. \quad N_i = \text{Im}(L_{i+1} \rightarrow L_i) \text{ とおくと}$$

$y \in \text{Ass}(R)$ について R_y -vector spaces の exact sequence

$$0 \rightarrow (N_n)_p \rightarrow (L_n)_p \rightarrow \cdots \rightarrow (L_0)_p \rightarrow \Omega_{R_p/R}^1 \rightarrow 0$$

が出来るから, 次の等式が得られる.

$$(4) \quad \sum_{i=1}^n (-1)^{i-1} r(L_i) = r(L_0) - r(\Omega_{R_p/R}^1) + (-1)^{n-1} r((N_n)_p)$$

$p \in \text{Ass}(R)$

補題 1. M を torsion free A -module とすると,

$$M_p = 0 \quad \forall p \in \text{Ass}(A) \Rightarrow M = 0$$

証明は容易である.

次の定理は [13] の結果の一般化である.

定理 1. 任意の奇数 n について不等式

$$\sum_{i=1}^n (-1)^{i-1} r(\text{Tor}_i^R(\Omega_{R/R}^1, R/m)) \geq r(m) - \dim R$$

が成り立つ. またある奇数 n について上の不等式が等式となる必要十分条件は $\text{hd}_R \Omega_{R/R}^1 \leq n$ である.

証明の概略: (*) が minimal free resolution であるから

$$r(L_i) = r(\text{Tor}_i^R(\Omega_{R/R}^1, R/m))$$

$$r(L_0) = r(\Omega_{R/R}^1).$$

これと (2), (3) および (4) から前半はわかる. 後半は (4) と補題 1 から得られる.

特に $n = 1$ とすれば [13] の結果が得られる. すなわち,

系. 不等式 $r(\text{Tor}_1^R(\Omega_{R/k}^1, R/m)) \geq r(m) - \dim R$ が成り立ち, 等号となる条件は $\text{hd}_R \Omega_{R/k}^1 \leq 1$.

R が complete intersection のときには $\text{hd}_R \Omega_{R/k}^1 \leq 1$ であることが, Macaulay ring の性質から比較的容易に示めされる. また逆も成り立つことが D. Ferrand によって証明された [5]. この証明はあまり知られていないようなので, 以下 上の系を使った一つの証明を与える.

定理 2. \mathfrak{a} を A の ideal で $\text{hd}_A \mathfrak{a} < \infty$ とする. $\text{ht } \mathfrak{a} = r$ ($\text{ht } \mathfrak{a}$ は ideal \mathfrak{a} の height) とし, A/\mathfrak{a} -module の homomorphism $\varpi: \mathfrak{a}/\mathfrak{a}^2 \rightarrow (A/\mathfrak{a})^r$ が surjection であれば, ϖ は isomorphism である.

この定理の証明の鍵は次の Auslander - Buchsbaum [2] の結果にある. 「 $\mathfrak{a} \neq 0$ のとき, $\text{hd}_A \mathfrak{a} < \infty$ であれば \mathfrak{a} は non zero-divisor を含む」

以下に述べる証明の概要は Kaplansky の手法によるもので, 細部については Vasconcelos [11] の Theorem 1.1 の証明に使われる幾つかの Lemmas を見られたい.

r についての帰納法. $r=0$ のときは上述の Auslander - Buchsbaum の結果から $\mathfrak{a} = 0$ であるから正しい. $r > 0$ のときには, $\mathfrak{a} \supseteq \mathfrak{a}^2$ である ideal \mathfrak{b} で $\mathfrak{a}/\mathfrak{b} \simeq (A/\mathfrak{a})^r$ となるものがとれ, $\mathfrak{a} = \sum_{i=1}^r A f_i + \mathfrak{b}$, $\bar{f}_1, \dots, \bar{f}_r$ は $\mathfrak{a}/\mathfrak{b}$ の

free base (こゝに \bar{f}_i は f_i の mod \mathfrak{a} の class) とあらわされる。こゝで \mathfrak{a} が non zero-divisor を含むことから f_1 と 1 が non zero-divisor がとれることが証明出来る。 $\tilde{A} = A/\mathfrak{a}f_1$ とし \tilde{A} の ideals や elements には \sim を付けて書くことにすれば、 $\text{ht } \tilde{\mathfrak{a}} = r-1$ ($\tilde{\mathfrak{a}} = \mathfrak{a}/\mathfrak{a}f_1$) であり $\tilde{\mathfrak{a}} = \sum_{i=2}^r \tilde{A} \tilde{f}_i + \tilde{\mathfrak{a}}$, $\tilde{\mathfrak{a}}/\tilde{\mathfrak{a}}^2 \simeq (\tilde{A}/\tilde{\mathfrak{a}})^{r-1}$ で、 Φ から induce される map $\hat{\Phi}: \tilde{\mathfrak{a}}/\tilde{\mathfrak{a}}^2 \rightarrow (\tilde{A}/\tilde{\mathfrak{a}})^{r-1}$ は surjection である。また $\mathfrak{a}/f_1\mathfrak{a} \simeq (Af_1/f_1\mathfrak{a}) \oplus (\mathfrak{a}/Af_1)$ (直和) が成り立つことと、 $\text{hd}_{A/\mathfrak{a}f_1}(\mathfrak{a}/f_1\mathfrak{a}) = \text{hd}_A \mathfrak{a}$ であることから $\text{hd}_A \tilde{\mathfrak{a}} < \infty$ がわかる。よって帰納法の仮定から $\hat{\Phi}$ は isomorphism。これと次の可換図型から目的である Φ が isomorphism であることがわかる。

$$\begin{array}{ccccccc}
 0 & \longrightarrow & (\mathfrak{a}^2 + Af_1)/\mathfrak{a}^2 & \longrightarrow & \mathfrak{a}/\mathfrak{a}^2 & \longrightarrow & \tilde{\mathfrak{a}}/\tilde{\mathfrak{a}}^2 \longrightarrow 0 \quad (\text{exact}) \\
 & & \downarrow & & \downarrow \Phi & & \downarrow \hat{\Phi} \\
 0 & \longrightarrow & A/\mathfrak{a} & \longrightarrow & (A/\mathfrak{a})^r & \longrightarrow & (\tilde{A}/\tilde{\mathfrak{a}})^{r-1} \longrightarrow 0 \quad (\text{exact})
 \end{array}$$

定理 3. ([5], [13]) 次の三条件は同値である。

- (i) R が complete intersection
- (ii) $\text{hd}_R \Omega_{R/k}^1 \leq 1$
- (iii) $r(\text{Tor}_1^R(\Omega_{R/k}^1, R/\mathfrak{m})) = r(\mathfrak{m}) - \dim R$

証明. (i) \Rightarrow (iii) および (ii) \Rightarrow (i) を示せばよい.

$R = S/\mathfrak{o}$, S は regular な k 上の locality, とあらわしておく
 と, \mathfrak{u} は S の maximal ideal とし $\mathfrak{o} \subseteq \mathfrak{u}^2$ としよ.

δ は exact sequence

$$\mathfrak{o}/\mathfrak{o}^2 \xrightarrow{\delta} R \otimes_S \Omega_{S/k}^1 \longrightarrow \Omega_{R/k}^1 \longrightarrow 0$$

において $N = \text{Im}(\delta)$ とすれば, $N \subseteq m(R \otimes_S \Omega_{S/k}^1)$.

これより $\text{Tor}_1^R(\Omega_{R/k}^1, R/m) \cong N/mN$. (これがって

$r(\text{Tor}_1^R(\Omega_{R/k}^1, R/m)) = r(N)$. また $\dim S = r(m)$ であるから

$r(m) - \dim R = ht$ の. よって定理 1 の系より

$r(N) \geq ht$ のであり, 条件 (iii) は

(iii)' $r(N) = ht$ の

といふがえられる. いま (i) とすれば, \mathfrak{o} は S -sequence

で生成され, その S -sequence の長さは丁度 ht のであるから (iii)' が得られる. 次に (ii) とすれば N は free であり,

(i) も定理 1 の系から (ii) \Leftrightarrow (iii)' がわかっているから

$r(N) = ht$ のより定理 2 を使って δ は isomorphism.

ゆえに $\mathfrak{o}/\mathfrak{o}^2$ は free. (これがって \mathfrak{o} は S -sequence

で生成される.

証明了

文 献

- [1] Auslander, M. and D. A. Buchsbaum, Homological dimension in local rings, Trans. Amer. Math. Soc. 85, (1957) 390-405
- [2] ———, Codimension and multiplicity, Ann. Math. 68, (1958) 625-657
- [3] Berger, R., Differentialmoduln eindimensionaler lokaler Ringe, Math. Zeit. 81, (1963) 326-354
- [4] Berger, R., R. Kiehl, E. Kunz und H.-J. Nastold, Differentialrechnung in der analytischen Geometrie, Springer lecture notes in math. 38 (1967)
- [5] Ferrand, D., Suite régulière et intersection complète, C. R. Acad. Sc. Paris 246, (1967) 427-428
- [6] Lipman, J., Free derivation modules on algebraic varieties, Amer. J. Math. 87, (1965) 874-898
- [7] Malliavin, M.-P., Condition (a_q) de Samuel et q -torsion, Bull. Soc. math. France 96, (1968) 193-196
- [8] Samuel, P., Anneaux gradués factoriels et modules reflexifs, Bull. Soc. math. France 92, (1964) 237-249
- [9] Séminaire Samuel, 1966/67 Algèbre commutative : Anneaux de Gorenstein et torsion en algèbre commutative, Secrét. math. Paris (1967)
- [10] Suzuki, S., On torsion of the module of differentials of a locality which is a complete intersection, J. Math. Kyoto Univ. 4, (1965) 471-475
- [11] Vasconcelos, W. V., Ideals generated by R-sequences, J. Algebra 6, (1967) 309-316
- [12] Vetter, U., Äusser Potenzen von Differentialmoduln reduzierter vollständiger Durchschnitte, manuscripta math. 2, (1970) 67-75
- [13] Matsuoka, T., Complete intersection の特徴づけについて, 数学 21, (1969) 217-218